

工 だより



(1年)組 名前

第18号

府中市立
府中第七小学校
図画工作科
令和 3年
3月9日発行
伊藤 志帆

授業の様子

一年生 「のびてへん

しん」では、細長い画用紙を蛇腹に折って、開いた時に描いたものが伸びるしかけの絵を描きました。キリンの首やウサギの耳や、電

車のびて、とても楽しい驚きのある作品が生まれました。

三年生

「クリスタルアニマル」では、以前の光の造形遊びの活動を活かし、たまごパックや透明容器で光る動物をつくりました。容器の種類やお花紙をはさむかどうかなどで変わる光の感じを生かしながら、つくることができました。



フランスパン (のびる！)



メロンパン (カメが)

四年生

「つつんだアート」では、身の回りの物や、場所をつつんで、感じの変化を楽しみました。階段の一部を黒い画用紙で包んだ活動からは「落ちたら異世界に吸い込まれそう」という感想が出ました。いつもと違う見え方に気付けたようです。



五年生

「あなたにおくるアート」では、友達や先生に作品を贈るつもりで作品を鑑賞しました。作品に描かれている人物を自分と友達の関係に例えたり、色遣いの優しさを作品を贈りたい相手の性格に例えたりするなど、いつもより作品をじっくり見て、多くの発見があったようです。

六年生

美術鑑賞教室は、毎年六年生が府中市美術館に行き、企画展などを鑑賞します。今年は感染症対策のため、学芸員さんが学校に来て、授業をしてくださいました。

篠原有司男さんの「ボクシン

グペインティング」が印象に

残ったという子が多く、グロ

ブに絵の具を付けてキャンバスを殴るといったことが、驚きだったようです。

大小島真木さんの

「万物の眠り、大地の

血管」では、「何かが

死んで、そこから新しい命ができるという感じだった。人間の体を地球に例えているように思えた。」という深く考えられた感想を書いた子がいました。

高嶋英男さんの「からっぽに満

たされる」では、「悲しい作品かも

しれない。口から垂れている金色は、アニメの中のおなかすいた時みたいだった。戦争であまり食べられない

くてお腹がすいた時みたい。一人でさみしいのかも。」という感想があり、すごい想像力を感しました。